

科目名	科目種別	授業番号		時期	曜日	時限	単位数	教室
		博士前期	博士後期					
企業における知的財産マネジメント	大学院 全学共通科目	W0515	W0615	後期Ⅱ	木曜	5限	1	南大沢 11-109
担当教員	備考							
吉川 万美* (大学教育センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修登録は教務課にて行うので履修登録希望者は初回授業に必ず出席すること。</li> <li>本科目の履修により修得した単位は、原則として課程修了に必要な単位に含めることはできない。</li> </ul>							
①授業方針・テーマ	現代は、工業社会から情報・知識社会へとパラダイムシフトが進行し、企業活動も有形資産（土地、建物、設備等）を重視した経営から、無形資産（技術、ノウハウ、アイデア等）を重視する方向へ移行しつつある。企業の研究開発・技術開発の場においても、優れた技術に特許などの知的財産権を組み合わせることにより、企業競争力の強化や製品やサービスの高付加価値化を図っている。本科目では、研究開発・技術開発における知的財産の役割と企業活動への貢献という視点から、企業戦略にとって重要な観点の一つである、知的財産マネジメントの基礎について解説する。							
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発職、技術職として最低限理解しておくべき特許権、意匠権、商標権等の知的財産権の基本的内容を習得すること。</li> <li>企業における価値創出活動である研究開発・技術開発において、知的財産権の果たす役割と戦略的意義を理解すること。</li> <li>実際のビジネスモデルから、優れた技術を活用し、自社の顧客を拡大しながら、他社の参入障壁をどのように構築するか、マネジメントの視点から考える。</li> </ul>							
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>特許権、意匠権、商標権、著作権等の概要、各権利保護の仕組み、レポートの説明</li> <li>企業の事業戦略における知的財産の意義、経済社会的背景、特許調査</li> <li>競争力を高める技術力と知的財産(1)（機能性材料）例：発光ダイオード、光触媒技術</li> <li>競争力を高める技術力と知的財産(2)（食品分野）例：アスパルテーム（味の素）</li> <li>競争力を高める技術力と知的財産(3)（IT分野）例：QRコード、ワンクリック（Amazon）</li> <li>ブランドの知的財産マネジメント(商標・意匠・知財ミックス)例：ヤクルト容器、新幹線車両</li> <li>オープン/クローズ戦略 例：CPU(Intel)、半導体(クアルコム)、ノウハウ秘匿（不正競争防止法、著作権）</li> <li>レポート発表、振り返り（ディスカッション）</li> </ol> <p>【授業方法】</p> 異なる専攻分野の学生と知的財産に関するテーマについてディスカッションも行う。							
④授業外学習	レポートに関して、パテントコンテストをテーマにした発明提出書作成及び特許調査を体験する。							
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「産業財産権標準テキスト 総合編」 発明推進協会 定価¥900+税</li> <li>プリントを配布する。</li> </ul>							
⑥成績評価方法	授業における参加と授業終了後のレポートで評価する。							
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>要件を明記のうえ、メールでアポイントメントをとること。</li> <li>メールアドレスは初回授業でお知らせする。</li> </ul>							
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に予備知識は必要ではない。学生の専攻分野は問わない。</li> <li>授業で取り上げる事例は、当該事例に関連する専攻分野以外を専攻する学生にも理解できるように解説する。</li> </ul>							